



あけひ役の稲森いずみ



きっかけは「同窓会」

©柴門ふみ/小学館

を冷静に見つめないと、痛い目にあうこともある、ということですよ」

夫や妻への不満のほけ口、若さや美貌の再確認、あるいは身も蓋もないカネ目当てで……今の「好き」の奥底は、必ずしもピュアではないかもしれないのだ。

ドラマは7月10日スタート、毎週木曜午後9時から。

柴門さんは、「登場人物は40代に差し掛かり、それぞれ人生にさまざまな重荷を抱えています。けれど、前向

きな人生を取り戻したいと誠実に考えているいい奴らです。彼らの物語がどのようなテレビドラマになるのか、今からとても楽しみで「さ」と期待する。

間もなく、夏の同窓会シ

## 楽天 本社のニコタマ移転で 田園都市線が超混雑

本誌・北川仁士

ーズン。最後に柴門さんから世の夫たちに愛の助言。「現在、妻が学生時代よりキレイになっていたら、焼けボックリ要注意」……だそうです。

ネット通販国内最大手の楽天が本社を移転する。移転先はアップバーミドルが住む街というイメージがある「ニコタマ」。こと東京都世田谷区の子玉川。2015年4月に完成予定の30階建てオフィスビルを1棟借りする予定だという。

楽天はたびたび本社を移転している。1997年、日本興業銀行（現みずほ銀行）を退職した三木谷浩史氏は従業員6人と港区で創業し、その後、目黒区内で2回移転した。2002年ごろに訪れた際は、同区は静かな住宅地に建つ雑居ビルにあり、若い社員が大勢

のはご存じの通りだ。08年に現在の品川シーサイド（品川区）に移転。成長は止まらず、09年末から13年末の4年間でグループ従業員数は5800人から1万9000人へと1.9倍に膨れ上がった。来年、再び移転する理由も「業容拡大のため」（広報部）。ちなみにヤフーも、東京ミッドタウンから千代田区紀尾井町のプリンスホテル跡地に建つ36階建てビルに移転する、と発表したばかりだ。

ところで、二子玉川に乗り入れる東急田園都市線は首都圏有数の混雑率で知られる。現在、品川の本社に勤務する約8000人が二子玉川に移れば、どんな影響が出るか。鉄道ジャーナリストの梅原淳氏が言う。

「田園都市線では急行電車が各駅停車と同じ速度でしか走れないほど混雑がひどく、07年からは朝のラッシュ時に急行運転を取りやめる異例措置に出ました。それでも15分ぐらいの遅れが頻繁に起きています」

同線でも最混雑する区間は、池尻大橋駅〜渋谷駅間の上り。都心から二子玉川駅に向かう下り電車の混雑はさほどひどくないため、楽天移転の影響はあまりなさそう。しかし、社員には神奈川県から上り電車に乗って通勤する人もいるだろう。上り電車の二子新地駅〜二子玉川駅間の混雑は悪化するかもしれない。また、二子玉川駅構内の混雑に拍車がかかりそう。

「毎日の乗降客と乗り換え客を合わせるとラッシュ時1時間当たり約3万2000人です。これに楽天社員分の8000人が加われば、大変な混雑になるでしょう」

楽天の13年12月期決算書によれば、税引き前利益は886億円。法人税、住民税、事業税などを約200億円納付した。このうち、地方税に当たる住民税は従業員が働く事業所が所在する自治体の収入になる。東

本社移転を判断した三木谷氏の判断は……



京都世田谷区の落合孝裕税理士に聞いた。

「住民税の8割を本社所在地に納税していると仮定すると、昨年、品川区に納付した住民税は数十億円にのぼります。移転後は世田谷区の税収となるわけで、区役所は喜んでいるでしょう。私の顧客には「二子玉川

の居酒屋など飲食店の経営者がありますが、楽天の本社移転で客が増えそうだと期待しています。『三木谷さんは来るかな』とかね」

楽天は本社に「楽天カフェ」を併設するという。地の期待が吉となるか、それとも……。

ジャーナリスト・谷道健太

最新地震研究で判明

南関東沿岸を巨大津波が襲う?!

東日本大震災後、「次に危ないのは南海トラフ巨大地震」と盛んに言われている。「おおむね1000〜1500年の間隔で発生しており、今世紀前半での発生が懸念」(政府中央防災会議)

され、静岡県沖く鹿児島県沖が想定震源域となっている。政府の被害想定によれば、死者・行方不明者は最大32万人という。

しかし、「次の巨大地震を南海トラフと決めつけていいのか」と疑問が持ち上がっている。武蔵野学院大

の島村英紀特任教授(地質学)が解説する。

「南海トラフの大地震は有史以来、13回記録され、1605年の慶長地震の次は1707年の宝永地震とされてきました。これが『地震間隔1000〜1500年説』の根拠の一つです。ところが、慶長地震は別の地方で起きたのではないかという指摘があるのです」

南海トラフ地震としては西日本での揺れの記録が少なく、疑問視する向きがあり、昨年10月の日本地震学

会秋季大会では「伊豆・小笠原海溝説」が飛び出した。伊豆諸島の東側に沿って南北に延びる海溝だ。

「巨大地震の発生は知られておらず、政府の地震研究機関もノーマークです。私は伊豆・小笠原海溝で巨大地震の可能性はあると考え

ています」(島村氏)

「巨大地震が再び日本を襲う!」(宝島社)の著者で、琉球大名誉教授の木村政昭氏は、「同海溝で数年内に巨大地震の発生する可能性は高い」と見通す。

「太平洋プレートが西から東に圧力をかけ続け、2011年に東北沖の断層が破壊されて東日本大震災が起きました。圧力はまだ続いており、小笠原諸島の西之島の火山が昨年から噴火する形で表面化しています」

火山噴火と巨大地震の発生には規則性が認められるという。例えば、伊豆大島の三原山は1912年に大噴火し、22〜23年に中規模噴火をした後、23年に大島

北方を震源域とする関東大震災が発生した。

「西之島では1974年に大噴火が起き、昨年からは規模噴火が続いています。火山と震源域の距離や位置関係から、西之島より北の伊豆・小笠原海溝で関東大震災のM7・9を上回る巨大地震が起きる可能性が高く、その時期はおそらく数年以内です」(木村氏)

東大地震研究所元講師の羽鳥徳太郎氏(津波工学)は、70年代に「慶長地震の震源域は伊豆大島南方」と論文で主張した。

「今も考えは変わっていません。三宅島など津波が及んだ地方で旧家を訪ね、古文書を読んで被害実態を調べ歩き、各種データを加えて解析した結果です」

慶長地震は千葉県九十九里浜から鹿児島県の太平洋岸にかけて死者を出す大津波を伴った。東京・品川では、人が波にさらわれた記録があるという。今後、同様の地震が起きれば、伊



東日本大震災では巨大津波が関東から東北、北海道の太平洋沿岸を襲ったが…

豆半島や南関東沿岸部に被害が及ぶだろう。

「伊東や熱海、鎌倉といった湾の角に当たる地形では波が集まって高さが増し、10以上に及ぶこともあり得ると思います。東京湾内部はせいぜい2〜3倍でしょうが、地下道や地下鉄に水が流れ込むと大変な被害になりかねません」(羽鳥氏)

次の巨大地震の時、もう「想定外」という言葉は聞きたくない。「伊豆・小笠原海溝巨大地震」についても調査と対策を早急に進めるべきではないのか。

ジャーナリスト・谷道健太